

上越線

くまぼろしとなった川額駅  
昭和村ボランティアガイドの会

理事 倉澤 俊雄

明治維新の後、新政府は文明開化に転じ、国内の交通網は急速に近代化された。特に、鉄道路線は飛躍的に敷設され拡大していった。上越方面に関しては、

明治十六年七月二十八日に上野・熊谷間が開通し、翌十七年五月一日に熊谷・高崎間が開通。その後、高崎・前橋間と高崎・横川間も相次いで開通した。

高崎から北へ向かう上越線の建設計画が持ち上がったのは、明治十五年のことだった。上越鉄道株式会社が設立され、同二十三年三月、政府に許可申請を提出した。政府としても国策上、日本海を結ぶ幹線鉄道建設の必要性を認識して、大正七年度から八カ年継続事業として、高崎から新潟県の長岡に至る鉄道建設が施工されることになった。

上越線の工事は、大正八年十一月二日に高崎から開始され、渋川までの区間が大正十年七月一日に開通した。渋川から先は当初、敷島を経て、昭和村に入り川額、その先は沼田から水上に至る計画だったが、蒸気機関

車は、煙や火花を出しながら通過したため、地元の農家から反対された。当時盛んに行われていた養蚕(かいこ)では、繭が黒くすすけ、また、かやぶきの家が多く火災に遭いやすいということで、向かいの岩本に駅が設置されたという経緯を古老より聞いた。

また、当時の沼田町では、線路や駅が沼田盆地に設置されるよう強く要望したが、勾配とそれに伴う迂回により建設費が増大するため、鉄道省によって却下された。紆余曲折ある中で、利根川沿いに計画が進んだ。

今思えば、事情があるにせよ、先見性と進取性をもって事にあたれば、本村はじめ利根沼田の玄関口として大いに発展したかもしれない。



なお、渋川から北では棚下トンネルの工事が陸軍鉄道連隊により進められ、大正十三年三月三十一日に沼田駅まで開通した。参考資料 利根沼田歴史民俗事典など



地域にとって大切な場所、サロンの活性化を目指して!

～第19回きずなサポーター会議(4月30日)の報告～

新型コロナウイルス感染症対策のため、人数制限や入り口での手指消毒・検温を実施し、今年度初めてのきずなサポーター会議を開催しました。

久しぶりに『きよしのズンドコ節』を踊ったり、『らくらく筋トレ体操のポイント講座』を確認したりしました。参加したきずなサポーターの皆さんからは、マスク越しに笑顔が見られました。

また、沼田警察署から「特殊詐欺」に注意を呼びかけていただきました。今年はすでに、昨年よりも

「キャッシュカード詐欺」や「オレオレ詐欺」といった特殊詐欺の発生件数が多くなっています。不審な電話がかかってきたら、慌てず家族や警察に相談するよう説明がありました。加えて「防犯機能付き電話」とこの電話を購入するときに利用できる補助金制度について紹介がありました。

参加したきずなサポーターの皆さんからは「久しぶりで楽しかった」「不審な電話には気を付けたい」といった声が聞かれました。



沼田警察署生活安全課の生方さんから講話



筋トレ体操に取り組むきずなサポーターの皆さん



問合せ 地域包括支援センター ☎24-5111(内線135)